
学修計画および 履修について

学生ポータルシステム (UNIVERSAL PASSPORT)

学生ポータルシステム（以下「UNIPA（ユニパ）」という）とは、WEB上で科目登録、時間割、成績、シラバス、各種掲示板等の確認・申請を行うことのできるシステムである。

1 主な機能

- ・スケジュール機能…行事予定の確認、学生個人のスケジュール登録
 - ・掲示機能……………休講、補講、教室変更、学生呼び出し、その他大学からのお知らせ
 - ・科目登録……………半期ごとに履修する授業を登録
 - ・学生時間割表照会…学生個人の授業時間割を確認
 - ・教員時間割表照会…教員が担当する授業時間割を閲覧
 - ・授業時間割表照会…本学で開講されている全授業の時間割を閲覧
 - ・成績照会……………学生個人の成績や単位修得状況を確認
 - ・進級見込判定…………学生個人の履修や単位修得状況により進級の可否を確認（2、3年生のみ）
 - ・卒業見込判定…………学生個人の履修や単位修得状況により卒業の可否を確認（4年生のみ）
 - ・資格取得見込判定…学生個人の履修や単位修得状況により資格取得の可否を確認（4年生のみ）
 - ・シラバス照会…………シラバスの検索および参照
 - ・WEBノート……………授業についてのメモ登録ができる。
- その他の機能（教員の指示に従って利用できる機能）
- ・課題提出……………課題をUNIPAを通して提出
 - ・授業資料……………授業資料をダウンロード
 - ・Q & A……………UNIPAを通して授業に関する質問を送る

2 User ID と Password

「UNIPA」を利用するには、ログイン画面で User ID と Password を入力する必要がある。

User ID …… 学科略称（英字 2 文字） - （ハイフン） 学籍番号下 5 桁
（例：英文学科所属学籍番号 1114102 の学生 → en-14102）

学科略称

学科	略称	学科	略称
英文学科	en	生活文化デザイン学科	lc
日本文学科	jl	発達臨床学科	ds
人間文化学科	cs	国際文化学科	is
音楽科	mu	心理行動科学科	pb
食品栄養学科	fn	児童教育学科	xe

Password …… 生年月日の月日（4 ケタ：1 月 1 日 生まれの場合は「0101」）

※セキュリティの観点から定期的に変更すること

3 ログイン方法

- 宮城学院女子大学ホームページからアクセスする場合
 - イ. 宮城学院女子大学ホームページ [http://www.mgu.ac.jp/] にアクセス
 - ロ. トップページにある専用バナー [UNIVERSAL PASSPORT] をクリック
 - ハ. 「UNIPA」のログイン画面が表示されるので、User ID と Password を入力し、[ログイン] をクリック
 - アドレスバーに直接入力する場合
 - イ. WEB ブラウザのアドレスバーに以下のアドレスを入力し、[Enter] キーを押す
https://unipa.mgu.ac.jp/
 - ロ. 「UNIPA」のログイン画面が表示されるので、User ID と Password を入力し、[ログイン] をクリック
- ※パスワードは連続 5 回間違えるとログインできなくなるので注意すること。

4 掲示情報について

「UNIPA」ポータル画面では、以下の掲示情報が確認できる

- ・緊急連絡……………緊急連絡を表示
- ・あなたへの連絡…………学生呼び出し、Q & A 回答などの情報を表示
- ・休講情報……………休講・補講・教室変更などの情報を表示
- ・大学ニュース……………大学からのお知らせを表示
- ・授業関連……………授業に関する情報を表示
- ・教務関連……………教務担当からのお知らせを表示
- ・学生生活関連……………奨学金・ボランティアなどのお知らせを表示
- ・就職関連……………就職担当・教職センターからのお知らせを表示
- ・情報システム関連…情報システム室からのお知らせを表示

※学生掲示板（人文館前）と掲示物の種類が異なる場合があるので、両方を確認するように気を付けること。

5 掲示情報のメール配信について

「UNIPA」では最新の掲示情報（一部を除く）を、校内メール（PC）や携帯電話のメールアドレス宛てに配信することができる。必ず「メール登録」を行い、掲示情報を受信できるようにしておくこと。また、メールアドレスを変更した場合は速やかに登録の変更を行うこと。

- メール登録の方法
 - イ. 「UNIPA」トップページにある [メール設定] をクリック
 - ロ. 「受信メールアドレス」に受信先のアドレスを入

かし、[確定]をクリック

※パソコン向けの受信メールアドレスには既に学内メールが登録されている。ガイダンス配布資料の「学生生活掲示板、Webメール、就職活動のためのマイページ利用の手引き」を参考に、宮城学院生活協同組合で利用手続きを行うこと。

ハ. 設定したアドレスに「あなたのメールアドレスは正常に登録されました」という確認メールが届いたら設定完了

○メールが届いていない場合（以下のいずれかを試してみる）

- ・携帯メールで[指定受信/拒否設定]をしている場合は「unipa@mgu.ac.jp」を受信許可にする。
- ・「URL付のメールを受信許可しない」設定をしている場合は設定を解除する。
- ・迷惑メールとして受信している場合もあるので、迷惑メールフォルダ内を確認する。

6 UNIPA 利用の注意事項

- ・「UNIPA」では個人情報が見ることができるので、User ID と Password の管理には気を付けること。
- ・学内 PC 等の他人が利用できる PC で「UNIPA」を利用した後や、一時的に PC から離れる際には必ずログアウトすること。
- ・「UNIPA」は一定時間サーバーへのアクセスがないと接続エラーになり、ログイン画面に切り替わるよう設定されている。その場合、登録した内容が無効になることもあるので注意すること。
- ・ブラウザの[戻る][進む]をクリックすると、「UNIPA」から切断されるため、ページの移動は画面内に表示されたアイコンから行うこと。
- ・毎日午前 2 ～ 5 時の間はメンテナンスのため利用できないので注意すること。
- ・「UNIPA」に関する質問は教務担当（本館 2 階）まで相談すること。
- ・ログインあるいは項目をクリックしてもページが表示されない場合は、ブラウザのポップアップブロック機能が働き、ページの表示が制限されている可能性がある。ポップアップを許可して利用すること。

7 詳しい操作方法について

各機能の操作方法については、「UNIPA」からダウンロードできる「操作マニュアル（PDF 形式）」を参照すること。

学 修 計 画

本学では教育研究上の目的を達成するために、授業科目を学科ごとに定めている。いくつかの規程の範囲内で「何を学び、履修するか」という各自の目的・研究内容に基づいて授業科目を選択する学修計画が必要になる。学修計画を立てる前に、所定の単位修得要件を理解するためにもこの手引きを熟読して、不備のないようにすること。

その上で疑問・質問がある場合、各学科の教務部委員（教員）か教務担当窓口で確認し、大切なことは自分で勝手に判断せず、不明な点はすぐに解決を図ること。

1 教務事項に関する Q & A

この「Q & A」は、科目登録時に質問の多い内容をまとめたものである。

一般事項について

Q カリキュラムとは何ですか？

A カリキュラムとは、教育課程のことを指す。学科・入学年度によって異なるので注意すること。

卒業するためには4年以上在学し、所属学科のカリキュラム（教育課程）にしたがって開講される授業科目を体系的に履修し、定められた卒業要件単位を修得しなければならない。

Q 科目登録とは何ですか？どのようにするのですか？ (⇒ P26 参照)

A 単位を修得したい科目を大学に届け出る登録手続きのこと。本学の場合、4月に前期分の科目登録を、9月に後期分の科目登録を行う。

Q 病気で授業を休むときはどうしたらよいですか？

A 学生便覧（本書）巻末の「欠席届」を各科目担当教員に提出すること。詳細は P36 を参照すること。

Q 学籍簿の記載事項（住所、保証人など）が変わったらどうしたらよいですか？

A すみやかに教務担当へ届け出ること。詳細は P37 を参照すること。

成績評価・試験関係

Q 試験はいつ、どのように行われるのですか？

A 本学では、「定期試験」の期間を設けていない。授業の担当教員が授業終了日までの間に、通常の授業時間の中で試験（レポート、発表なども含む）を実施して評価を決定する。授業時間中に試験方法・実施時期について説明されるので、注意しておくこと。

Q 試験を病気で欠席してしまったのですがどうしたらよいですか？ (⇒ P38 参照)

A あらかじめ定められた期間内に「追試験受験願」を教務担当窓口へ提出しなければならない。担当教員に相談しただけでは手続きが完了しないので注意すること。

Q 成績評価が納得できないので、先生に質問したいのですが？

A 出席やレポート提出・試験など全ての条件を満たし、正当な理由と思われる質疑についてのみ教務担当窓口で受け付ける。ただし、質疑がある場合は、成績評価が発表されてから1週間以内に教務担当窓口へ申し出ること。

履修制限と授業関係

Q 2年生が1年生の科目を履修できますか？

(⇒ P27 参照)

A 所属する学科・学年のカリキュラムにある科目であれば、下位学年の科目を履修することができる。その場合は、「再履修」扱いとなるので、「再履修」について確認しておくこと（ただし、下位学年とカリキュラムが異なる場合はすべての科目が履修できるとは限らない）。

Q 登録した科目を取り消すことができますか？

(⇒ P28 参照)

A 科目登録の訂正・変更期間内であれば、取り消すことができる。ただし、期間が過ぎた場合は、理由にかかわらず取り消すことはできない。

Q 評価が「C」では納得できないので、今年、もう一度、履修しなおすことはできますか？

A 一度単位を修得した科目を再履修することはできない。ただし、再度履修が認められている科目であれば履修しなおすことができるが、評価が次年度に修得した評価に変わることはない。

Q 他学科開放科目を履修したいのですが、時間割が分かりません。曜日・校時や登録のコードを知るにはどうしたらいいですか？ (⇒ P27 参照)

A 4月のガイダンスで科目登録関係書類と一緒に、他学科開放科目一覧が配布される。それを見て曜日・校時、登録のコードを確認すること。

2 教務に関する用語について

(1) 学年制・単位制

「学年制」とは、学年ごとに進級要件単位がある制度。本学が導入している「学年制」では、学年ごとではなく第3学年から第4学年に進級する時に進級要件単位を設定している。

「単位制」とは、各学年での修得単位が少なくても、休学しないかぎり進級することができ、第4学年終了時点で卒業要件単位（124単位）を修得すれば卒業できる制度である。

(2) 在学・在籍

学生の修業年限は4年とし、在学できる期間は8年を超えることができない。なお、休学期間は在学期間には算入されない。

休学期間は通算で4年以内とする。在学期間に休学期間を含めた在籍期間は12年を超えることができない。

編入学生の在籍できる期間は、編入学を許可された年次生と同様に扱う。再入学生の在籍期間については、再入学以前の在学期間と通算し、12年を超えることができない。

(3) 休講（P36 参照）

学校行事や担当教員のやむを得ない理由などにより授業が休みになることがある。学生には事前に教務担当掲示板および UNIPA で通知する。

(4) 補講（P36 参照）

休講により授業時間数が必要時間数に満たない場合や授業計画が達成されなかった場合に行われる授業のこと。履修している学生は通常の授業同様に出席しなければならない。

(5) 再履修（P27 参照）

所属学科・学年のカリキュラムにある科目について下位学年科目を履修することを「再履修」という。再履修の科目を登録する場合は注意が必要なので、教務担当窓口で確認してから科目登録を行うこと。

(6) 再度履修

以前に単位を修得した科目を次年度以降に再度、履修することである。

再度履修科目には、学科・学年および科目によって卒業要件単位に含まれる場合と含まることができない場合があるので注意すること。

該当科目について、一般教育科目は「一般教育科目の履修」、専門教育科目に関しては各学科履修方法を参照すること。

(7) 単位互換制度（P21 参照）

協定締結校において提供される授業科目を履修し、修得した単位が所属校の単位として認定される制度。単位互換科目とは、他の協定締結校が提供している科目のことである。

3 授業科目について

本学に開設されている科目は、その内容によって次

のような区分に分けられている。教育課程表（カリキュラム表）および資格・免許のページを参照して履修計画を立てること。

1. 教育課程による区分

(1) 一般教育科目

本学では、大学生としての豊かで幅広い教養と見識を育むために、すべての学科・学年を対象に一般教育科目を開講している。

第1・2学年では、個々の学科を越えて「学ぶこと」そのものに対する理解を深めつつ、専門研究への基礎づくりを行うことを目的としている。

第3・4学年では、専門研究を進める上での視野を広げ、創造性を高めることを目的としている。

その他、人格形成の導きとなる「キリスト教学」、国際化時代への対応力を養う「外国語」、健康的生活の興味を学ぶ「運動スポーツ論」・「スポーツ」などを開講し、現代社会を生きる上で重要な知識や考え方を養う。

(2) 専門教育科目

学科の教育上の目的を達成するために必要なものとして設定されている科目である。学科ごとに特徴があるので、教育課程表（カリキュラム表）や履修方法などをよく読み、どのような科目を履修しなければならないかを確認すること。

2. 履修要件による区分

(1) 必修・選択・自由科目

必修科目 卒業または資格取得のために必ず履修するよう義務付けられている科目。未修得科目が生じた場合、卒業または資格取得ができなくなる。

選択科目 指定科目数（単位数）を必ず選択し、単位を修得しなければならない科目や各自の希望により自由に履修できる科目であり、卒業要件単位に含まれる。

自由科目 各自の希望により自由に履修できる科目であるが、卒業要件単位に含めることはできない。

3. 開講学期による区分

(1) 前期・後期・連講科目

前期科目 前期のみ開講し、終了する授業科目。授業回数は原則として15回。

後期科目 後期のみ開講し、終了する授業科目。授業回数は原則として15回。

連講科目 一定期間に集中的に授業が行われる科目。
※ 連講科目が開講される期間は、行事予定表および時間割に記載されている。詳細については連講期間の1ヶ月前までに教務担当掲示板で知らせる。また、連講科目は短時間で集中的に行われるため、1日でも欠席すると試験の受験資格を喪失する場合があるので、健康管理に十分注意して講義に臨むこと。

4. その他

(1) 他学科開放科目

自分が所属する学科以外の授業科目に興味を持ち、受講を希望する学生のために設置されている授業科目を「他学科開放科目」という。

「他学科開放科目」を履修し、修得した単位は各学科で定められている『その他の履修科目』の単位として認定される。ただし、受講にあたっての注意事項があるので確認すること。(P27 参照)

4 単位の修得方法

本学では、大学設置基準に基づき各授業科目に「単位」を定めている。(学則第7条)

単位は、科目登録を行った上で授業に出席し、試験(筆記・レポート・実技など)に合格することによって修得することができる。

これらの単位を積み重ね、第3学年において進級要件単位を満し、「卒業に必要な科目(必修・選択科目など)」および「卒業要件単位数(124単位)」を修得すれば卒業することができる。

単位の計算方法は、1単位の授業科目の場合、授業や自習をすべて含めた45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としているが、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して単位数を計算している。なお、本学の多くの授業の単位数となっている2単位の授業科目の場合は次のとおりとなる。

2単位に要する学修時間数

授業方法	学修時間(90時間)	
	授業時間	自習
講義・演習	30時間～60時間	60時間～30時間
実験・実習及び実技	60時間～90時間	30時間～0時間

※卒業論文等については学修の成果によって評価し単位を授与する。

5 キャップ制

キャップ制とは、授業の予習や復習など教室外において学習する時間を考慮し、単位の過剰登録を防ぐため、学期間・年間に科目登録できる単位の上限を設ける制度である。

1年度あたり修得できる単位数は、前期、後期それぞれ28単位、通年で48単位を超えてはならない。

ただし、次の科目は全学科において科目登録の上限に含めない。

- (1) 【教職に関する科目】(発達臨床学科、児童教育学科を除く)

授業科目名	授業科目名
教育原理	教育相談
教育制度論	各科教育法
教職概論	教職実践演習(中・高)
教育心理学	教職実践演習(栄養教諭)

教育方法論	教職実践演習(養護教諭)
道德教育の理論と方法	教育実習A(事前事後指導を含む)
特別活動の理論と方法	教育実習B(事前事後指導を含む)
教育課程の研究	養護実習(事前事後指導を含む)
生徒指導A(進路指導を含む)	学校栄養教育実習(事前事後指導を含む)
生徒指導B	

- (2) 【学芸員に関する科目】中の学芸員必修科目
(日本文学科、人間文化学科、音楽科文化系、生活文化デザイン学科、国際文化学科)

授業科目名	授業科目名
生涯学習概論	博物館展示論
博物館概論	博物館教育論
博物館経営論	博物館・情報メディア論
博物館資料論	博物館実習I
博物館資料保存論	博物館実習II

- (3) 【図書館学に関する科目】(英文学科、日本文学科)

授業科目名	授業科目名
生涯学習概論	情報サービス演習II
図書館情報学概論	図書館資料論
図書館情報技術論	資料組織法概説
図書館制度・経営論	資料組織法演習A
図書館サービス概論	資料組織法演習B
情報サービス概論	データベース特論
児童サービス論	専門資料論
情報サービス演習I	図書・図書館史

- (4) 【司書教諭に関する科目】(英文学科、日本文学科、音楽科、生活文化デザイン学科、児童教育学科)

授業科目名	授業科目名
学校経営と学校図書館	学校図書館メディアの構成
学習指導と学校図書館	読書と豊かな人間性
情報メディアの活用	

- (5) 【時間割に組み込まれない科目】

- ①連続講義として開講される科目
- ②時間割に組み込まれていない実習科目(シーズンスポーツを含む)
- ③認定単位科目(入学前の既修得単位の認定を含む)
- ④単位互換科目
- ⑤卒業論文、卒業制作等

なお、学科独自の科目登録の上限に含めない科目については、各学科履修方法を参照すること。

- (6) 【その他】

- ①在学留学が決定した学生については、派遣決定後の各学年に登録できる単位の上限を56単位とする。
- ②編入生および転学科生については、1年次および2年次開講されている科目をすべて科目登録の上限に含めない。

6 進級要件不足による進級注意通知と進級不可通知

3月下旬頃、進級に関する進級注意通知と進級不可通知を保証人（保護者または学費負担者）と学生本人の連名で保証人住所に送付する。進級要件は、次のとおりである。

【進級注意通知】

第2学年終了時点において、卒業要件に係る修得単位数が64単位数に満たない学生には、第4学年に進級できない可能性があることを理解してもらい、第3学年の科目登録計画ができるように書面により通知をする。

【進級不可通知】

第3学年終了時点において、卒業要件に係る修得単位数が76単位数に満たない場合は、第4学年に進級することができない。当該学生には、進級判定教授会後に書面により通知をする。

7 卒業要件単位

本学を卒業するためには、4年以上（8年以内）在学し、次の「卒業要件単位数」を満たす単位を修得しなければならない。各々の区分・分野別に細かく卒業要件が定められている。

卒業要件単位とは、卒業するために必要な最低単位数であり、1単位でも不足すると卒業は認められない。また、他区分・分野の授業科目の単位で代替することもできないので注意すること。

●2013年度入学生		(単位数)									
	E	J	C	M	F	L	D	I	P	X	
人文社会系科目	18	18	8	18	16	18	16	6	18	12	
自然系科目	6	6	6	6	4	4	6	6	6	6	
総合科目	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
外国語科目	4	8	8	8	4	4	4	4	8	4	
体育科目	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
一般教育科目計	38	42	32	42	34	36	36	26	42	32	
専門教育科目計	86	82	92	82	90	88	88	98	82	92	
卒業要件単位数	124										

8 卒業延期・留年

第4学年終了までに卒業要件単位を修得できない者は、卒業延期または留年となる。該当学生には、卒業判定教授会終了後に通知する。

なお、留年した後、前期終了までに卒業要件単位を修得した場合には、教授会の議を経て学長が9月30日付の卒業（9月期卒業）を認定することができる。なお、9月期卒業認定は卒業論文等の提出が遅延した学生についても適用される。

9 除籍について

学則第27条の2項により、次の各号に該当する場合、除籍となるので注意すること。

- (1) 所定の期日までに当該年度授業科目の登録をしない者
- (2) 学費納入期限後3ヶ月を経過してもなお納入しな

い者

- (3) 第3条に定める在学年限をこえた者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

10 単位互換制度について

(1) 趣旨

仙台圏の大学・短期大学・高等専門学校合わせて21校が「学都仙台単位互換ネットワークに関する協定」を締結している。

単位互換とは、他の協定締結校で提供されている授業科目を履修し、修得した単位が所属校の単位として認定されるという制度である。

興味、関心に基づき所属校には無い授業科目を履修することによって多種多様な学習が可能となるので積極的に活用しよう。

(2) 協定締結校（21校）

大学：16校 尚絅学院大学・仙台大学・仙台北百合女子大学・東北大学・東北学院大学・東北芸術工科大学・東北工業大学・東北生活文化大学・東北福祉大学・東北文化学園大学・東北薬科大学・宮城大学・宮城学院女子大学・宮城教育大学・石巻専修大学・放送大学

短大：4校 聖和学園短期大学・東北生活文化大学短期大学部・仙台青葉学院短期大学・宮城誠真短期大学

高専：1校 仙台高等専門学校

(3) 派遣大学と受入大学

自分が所属している大学（本学）を派遣大学、単位互換授業科目を履修する先の大学（他大学）を受入大学と呼ぶ。

(4) 出願資格

単位互換協定を締結している学校の学生が対象となる。

(5) 出願手続

- 出願の時期は、前期科目および通年科目が4月上旬、後期科目が7月中旬となるが、詳細については教務担当掲示板で通知する。出願時期が年1回に限られる学校もあるので注意すること（放送大学については、(10)その他を参照）。
- 受入大学の出願要項（授業概要を含む）を本学の教務担当窓口で閲覧し、各校が提供している授業科目の内容や開講曜日・校時、本学の時間割表との照合、通学に要する時間などを各自で確認すること。履修できるかよく考え、安易な気持ちで出願することのないようにすること。
- 受入大学と履修する授業科目が決定したら、本学の教務担当窓口で「単位互換学生（特別聴講学生）願書（共通様式1号）」を受け取り、必要事項を記入後、本学の教務担当窓口へ提出する。
- 卒業判定時期の関係から、第4学年は通年科目およ

び後期科目を履修することはできるが、卒業要件単位に含めることはできない。

- 履修しようとする授業科目の名称が、自分の所属する学科の教育課程表(カリキュラム)にある科目と同一であった場合、単位認定されない可能性があるため、本学の教務担当窓口を確認すること。

(6)科目履修

- 本学から各受入大学に一括して受入依頼を行い、受入大学で選考した後、結果が本学に通知される。
- この通知に基づき、掲示板の「学生呼び出し」で呼び出されるので、教務担当窓口で結果を確認すること。科目履修許可の時期は、前期科目および通年科目が4月下旬、後期科目が9月下旬となる。
- 科目履修を許可された学生には、各受入大学から単位互換学生証(特別聴講学生証)が交付される。

(7)入学金および授業料

入学金および授業料、その他の手続費用は無料。ただし、履修する授業科目によっては実習等に係る費用を徴収される場合があるので注意すること(放送大学については、(10)その他を参照)。

(8)単位認定

各受入大学から一括して本学に単位互換で履修した授業科目の成績が通知される。この成績通知に基づき、本学で成績を評価し、本学における授業科目の履修により修得したものとみなして単位を認定する。

このうち、卒業要件単位として認定される単位数の上限は学科ごとに教育課程表に定められている。詳しくは本学の教務担当窓口にお問い合わせのこと。

(9)受入大学における施設利用等

単位互換学生が利用可能な施設は各受入大学により異なるので、各大学の出願要項で確認すること。また、通学方法(自家用車使用の可否など)についても記載されているので、物理的に履修が可能かどうかを各自で確認すること。

(10)その他

○休講等の連絡について

受入大学の授業科目に休講などの変更が生じた場合には、受入大学から本学に連絡が入る。本学掲示板の「学生呼び出し」を通して連絡するので注意しておくこと。

○追試験について

下記の場合は受入大学の追試験を受験することになるが、受入大学の定期試験を受験できなかった場合には、必ず本学の教務担当窓口申し出ること。

●本学と受入大学の定期試験が重複した場合

本学の試験を優先して受験し、受入大学については追試験を受験すること。

●公共交通機関の不通などの場合

交通機関が発行する証明書が必要。証明書は本学の教務担当窓口提出すること。

●病気などの場合

診断書が必要。本学の教務担当窓口提出すること。

●忌引の場合

事実確認が必要。本学所定の忌引届を本学の教務担当窓口提出すること。

○放送大学について

放送大学の提供科目履修では、以下の点にも留意すること。

●出願時期(詳細は教務担当掲示板で通知する)

前期科目及び通年科目 2月上旬(募集時期12月)

後期科目 8月上旬(募集時期6月)

- 授業料として、1科目(2単位)あたり、11,000円は学生の自己負担となる。

11 入学以前の既修得単位の認定について

本学の第1学年に入学した学生が入学前に大学または短期大学(科目等履修生や外国の大学または短期大学において修得した単位も含む)あるいは高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修によって修得した単位(いわゆる既修得単位)について本人の申し出があった場合、審査の上、教育上有益と認められた時は、60単位を超えない範囲で本学において修得したものとみなし、科目ごとに読み替えて単位を認定することができる。

ただし、入学年度のみ申請可能なので、単位認定希望者はガイダンス期間内(4月初旬)に教務担当窓口にて相談すること。

12 留学について

本学においては、留学生交換(派遣)協定が結ばれている7カ国、8校の大学等へ留学できる派遣留学制度があり、帰国後に留学先における学修の成果について単位認定を受けられる。これにより、例えば2年生で1年間留学しても、3年生に進級可能となる。

この派遣留学制度を利用するには、最低限の語学基準を満たす必要がある。英語圏への留学の場合は、TOEFLで450点以上(学内では5月と11月にペーパーベースで実施)、中国へは中国語検定準4級以上がHSK2級以上、韓国へはハングル能力試験4級以上が韓国語能力試験1級以上、フランスへはフランス語学力試験TCF A2以上か、TEF Niveau - 1以上もしくはフランス語資格試験DELF A2以上の取得が条件となる。いずれも少しの努力で十分取得可能な基準となっている(語学試験の詳細はWeb上で確認のこと)。

募集時期は、5月募集(翌年3~4月派遣学生)が、遼寧師範大学、忠南大学、リーズ大学、ウィニペグ大学、クィーンズランド工科大学。10月募集(翌年8~9月派遣学生)が、ハイデルバーグ大学、北アリゾナ大学、カン大学となっている。

(1)申請の手続き

○留学前の手続き

- 国際交流センターに「留学願」、「留学計画書」、「学業成績証明書」、「応募資格を満たす語学成績証明書」を添えて応募期限までに提出する。
- 国際交流委員会の議を経て、教授会で認められた場合、留学が許可され、「誓約書」を学長に提出する。
- 国際交流センターに留学先制定の願書類を提出し、

入学許可証を入手後に、ビザ等の渡航準備を開始する。

◎留学後の手続き

- 留学から帰ってきたら、速やかに「帰学願」と「留学報告書」を教務担当に提出し、教授会において帰学が承認される。
- 留学先における学修の成果について単位認定を受けるために「単位認定願」を所属する学科の教務部委員に提出する。

(2) 事前に協議が成立している外国の大学（協定校・提携校）7カ国8校

○ハイデルバーグ大学（米国・オハイオ州）

オハイオ州にあるハイデルバーグ大学は由緒ある私立大学で、落ち着いた環境の中で快適に勉強できる。TOEFLのスコアが500点未満であれば英語力強化のためのコースで勉強。後期は一般の授業をアメリカの学生と一緒に取れる。住まいは学生寮。

期間1年、2名募集。

○北アリゾナ大学（同・アリゾナ州）

北アリゾナ大学（州立）のあるFlagstaffは自然に恵まれ、勉強に集中できる環境である。特別英語強化コースで英語力が十分と見なされた学生はアメリカの学生と一緒にのクラスを受講することが可能。寮でのアメリカ人学生との共同生活は将来の貴重な体験になる。

期間1年、4名募集。

○クィーンズランド工科大学（オーストラリア・ブリスベン市）

オーストラリアのブリスベンにあるクィーンズランド工科大学（国立）は、多くの学部を有する総合大学。語学校での英語の上達度により様々なコースを選択することもでき、サポートシステムも充実している。住まいはホームステイ。

期間半年か1年、2名募集。

○遼寧師範大学（中国・大連市）

中国遼寧省大連市にある国立の教育系総合大学。人文、科学両コースがあり、「国際文化交流学院」は付属の中国語研修施設で、初級から上級までじっくりと中国語を学べる。学内には学生寮が完備。中国語の上達に合わせて本科課程の通常講義を受講できる。

期間半年か1年、2名募集。

○忠南大学（韓国・大田市）

ソウル南部最大の国立総合大学で、人文学、自然科学をはじめとする学部を有する。語学コースは初級、中級コースを開講しており、学内には学生寮が完備。人文学部門に日本語学科、日本文学科があり、韓国人学生との相互交流が盛んに行われている。

期間半年か1年、2名募集。

○リーズ大学（英国・リーズ市）

ロンドンから電車で約2時間半、イングランド北部

に位置する国立の総合大学で、19世紀後半から20世紀初頭にかけて産業や工業の近代化を支えるために英国の主要都市に創設された一連の大学のひとつ。質の高い研究は国際的に高評価。語学力に応じて様々なコースが選択できる。語学校完備。住まいは学生寮。

期間半年か1年、2名募集。

○ウィニペグ大学（カナダ・ウィニペグ市）

自然に囲まれたマニトバ州の州都であるウィニペグにある州立大学。文理学部のほかに継続教育部門等を有し、教育学、科学、社会科学の分野を中心に40の専攻分野がある。大学付属の語学校の英語研修コースには定評があり、留学期間も弾力的に選ぶことができる。住まいはホームステイ。

期間半年か1年、2名募集。

○カン大学（フランス・カン市）

フランス北部ノルマンディー地方の中心都市カン市にある国立総合大学。FLEセンターがあり、入門から6レベルのコースがあり、語学力に合わせ、文明講座、仏事情、言語学、言語社会学、マルチメディアの中の仏語、仏の社会と言語学等の科目が語学以外に選択できる。春学期1月末から5月末、夏期講座:6月、7月、秋学期は9月中旬から12月中旬。住まいはホームステイ。

期間半年か1年、2名募集。

※各大学の詳細については、Web上の各大学のホームページで確認のこと。

(3) その他

必要な経費は米国に1年間留学した場合、概算で、学費が約120万円、生活費、渡航費等が110万から140万円程度となっている。半年間の場合はその半分程度が目安。派遣留学期間中は留学のための休学扱いとなり本学の授業料は免除される（遼寧師範大学、忠南大学は本学の授業料を支払い、留学先の分が免除される）。また、派遣留学については日本学生支援機構の貸与奨学金や、本学の上限50万円の貸与奨学金制度もある。

留学に関する詳細は、人文館5階（A547）の国際交流センターで確認すること。

Eメール：ircenter@mgu.ac.jp

電話：022-279-5908

13 転学科

転学科は、第2学年から第3学年に進級する時点で実施する。ただし、転学科希望者の学年は出願時に第2学年以上とする。

(1) 出願資格

出願資格は、第2学年終了時に62単位以上修得済みまたは修得見込みの学生とする。

(2) 募集学科・選考方法

○募集要項は10月上旬頃に掲示板で知らせる。募集の有無については、募集要項で確認すること。なお、

募集学科・選考方法は以下のとおりである。

学科	募集の有無	選考方法
英文学科	欠員のある場合	筆記試験・面接
日本文学科	欠員のある場合	筆記試験・面接
人間文化学科	欠員のある場合	筆記試験・面接
音楽科(実技系)	募集しない	—
音楽科(文化系)	欠員のある場合	筆記試験・専門試験・面接
食品栄養学科	募集しない	—
生活文化デザイン学科	欠員のある場合	筆記試験・面接
発達臨床学科	欠員のある場合	筆記試験・面接
国際文化学科	欠員のある場合	筆記試験・面接
心理行動科学科	欠員のある場合	筆記試験・面接
児童教育学科	欠員のある場合	筆記試験・面接

(3) 出願期間・選考試験日

- 出願期間 10月下旬
 - 選考試験日 11月中旬
- 詳細は募集要項で確認すること。

(4) 注意事項(転学科が認められた場合の単位認定について)

- 転学科が認められた場合、次年度の4月から新しい学科で第3学年をスタートすることになるが、これまでに修得した単位を1科目ずつ転学科先のカリキュラムと対照させて、どの科目が振替可能であるか検討されることになる。
- 振替を認められた科目の単位は認定されるので、転学科先で改めて履修する必要はない。
- ただし、在学していた学科の科目が転学科先の科目に対応できない場合は、修得した単位のほとんどの振替が認められないことがある。
- 振替が認められない場合、転学科後2年間で卒業要件単位(124単位)を修得することが難しく、通算4年間で卒業できるとは限らないことを了承した上で、転学科出願すること。

14 研究生・科目等履修生・聴講生

本学卒業後に研究生として研究を続けることや聴講生として授業科目を聴講することができる。また科目等履修生として必要な科目の単位を修得することができる。

希望する場合は、以下の説明および「宮城学院女子大学研究生規程」「宮城学院女子大学科目等履修生規程」「宮城学院女子大学聴講生規程」をよく読むこと。不明な点については、教務担当に問い合わせること。

(1) 研究生について

特定の専門分野について研究する者を研究生として入学を許可することがある。研究期間は4月1日から1年間として、引き続き研究を願い出た場合は1年間の延長を許可することがある。

なお、研究生として入学が許可された場合は、専任教員が指導教員となり、指導教員のもと研究を行うことになる(音楽科研究生の「器楽」および「声楽」の実技指導は、非常勤講師が担当することもある)。

【志願資格】

- 大学を卒業した者
 - 教授会において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- ※ただし、志願する者は、研究するに相応しい能力および専攻分野の研究能力に優れており、研究目的や課題研究が明確でなければならない。

【出願手続】

- 研究生の案内を12月頃教務担当で配布する。
- 例年、出願期間は2月上旬から中旬にかけてである。希望する者は、早めに案内を受け取ること。

【選考】

- 音楽科研究生以外を希望する者で本学卒業生の場合は、書類選考となる。
- 音楽科研究生を希望する者は、入学試験を行う(実技系希望者は実技試験を課す。当該年度本学を卒業する志願者の場合、試験曲には卒業演奏試験で演奏した曲目を含めることができる・文化系希望者は小論文および面接を課す)。

【入学手続】

種別	納付金(年額)	内訳	
音楽科研究生(実技系)	320,000円	授業料	300,000円
		楽器使用料	20,000円
音楽科研究生(文化系)	200,000円	授業料	200,000円
上記以外の研究生	200,000円	授業料	200,000円

※音楽科研究生が演奏研究生成果の公表に関して必要となる諸経費(ただし、学内会場費、楽器費は除く)は発表者の負担になる。

【その他】

- 音楽科研究生を希望する場合について
研究生の研究は、志願時に立案し提出された研究計画と年度末の研究成果の公表をもって完結する。研究期間は1年であるが、実技系の研究生は2年間にわたって研究することが望ましい。
実技系研究生の研究成果は、1年次では30分のリサイタルとし、2年次では1時間の個人リサイタルとする。また、文化系研究生の研究成果は、研究論文あるいは制作作品(コメンタリー付)の提出およびその口頭発表ないし作品発表とする。
提出日時は、2月15日正午まで音楽科副手室とする。2月15日が休日の場合は、2月16日となる。2年次の研究(1年間の研究延長)を希望する場合には、改めて志願手続きをとること。

(2) 科目等履修生について

本学において開設されている授業科目の単位修得を目的として、科目履修を希望する者を選考のうえ科目等履修生として許可することがある。

科目等履修生は、原則1年間とし、授業料は、1単位につき20,000円となる。ただし、1年間に履修可

能な単位は、30 単位以内である。

なお、音楽科専門科目の実技系科目については、1 単位につき 32,000 円となり、オルガン実技のみ楽器使用料として 120,000 円を徴収。

【資 格】

- 高等学校を卒業した者
- 本学教授会において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力を有すると認められる者

【出願手続】

出願期間は、例年 3 月上旬頃である。科目等履修生を希望する場合は、12 月頃要項を教務担当で配布しているので、早めに受け取りに来ること。

【選 考】

書類選考等により行うが、面接等を行う場合もある。

(3) 聴講生について

本学において開講する授業科目について、本学学部生の教育研究に支障のない場合に限り、勉学の目的・意志を明確にもち、単位修得を必要としない者にその科目の聴講を開放することがある。

聴講生は原則 1 年間とし、授業料は、1 単位につき 15,000 円となる。ただし 1 年間に履修可能な科目は、5 科目以内である。

【資 格】

- 高等学校を卒業した者
- 教授会において、高等学校を卒業したものと同等以上の学力があると認められた者

【出願手続】

出願期間は、例年 3 月の月上旬頃である。聴講生を希望する場合は、12 月頃要項を教務担当で配布しているので、早めに受け取りに来ること。

【選 考】

書類選考等により行うが、面接等を行う場合もある。